

いずみ野

学校教育目標 ▶ 豊かな心と確かな学力で未来を切り拓く子ども
R6重点目標 ▶ 未来につなぐ～学ぶ楽しさ・心と体のたくましさ
— 誰一人として取り残されない学校 —

江別第三中学校区 ▶ 夢へのチャレンジ、人への優しさ、
目指す子ども像 未来をひらく子どもたち

HPにつながりませ



江別市立いずみ野小学校 学校だより
令和6年5月24日(金) 第3号 通算434号



がむしゃら魂～赤勝て、白勝て、自分に克て！

冒頭に5連休があり、いつにも増して早く過ぎ去りそうだった5月はあと1週間で終わり、暦をめくると運動会。今週からは特別日課が始まり、よさこいソーランの音楽が聞こえてきます。それに混じって子どもたちの元気で愛くるしいかけ声も聞こえ、思わず顔がほころぶ私です。

がむしゃらに

今年の運動会のテーマは、以下のように決まりました。
がむしゃらに走ってつかめ！ 最高のチームで優勝の2文字を

私はこの「がむしゃら」という語に少し驚きました。どちらかと言えば古めかしい表現の言葉であると思っていたからです。このテーマを考案した児童(5年)に聞くと、「あまり深く考えていなかったけど、この言葉でいいんじゃないかなと思って」と、軽い感じで答えてくれました。

—「がむしゃら」を辞書で調べてみました。

- *漢字では「我武者羅」と書く。漢字は当て字。
- *我武者…向こう見ずで乱暴に物事を行うこと、その人。
- *意味…一つの目的に向かって夢中で取り組むさま。**後先を考える前に**目的へと突き進もうとするさま。

かつては「向こう見ず」「乱暴」といったマイナスイメージの言葉だったようですが、現代では肯定的な場面で使われることが多くなっています。

上の「**後先を考える前に**」という部分を、「**結果にとらわれずに**」という表現に置き換えて考えてみました。

結果は誰にもわかりません。「勝てる」と思えば「油断」が、「負ける」と思えば「諦め」が生じてしまいます。わかるはずのない結果(=未来)を考えるのではなく、ただひたすら目的(ここでは味方の勝利)へと突き進むことだけを考える—そういう意識が、「がむしゃら」という語には込められているように思います。



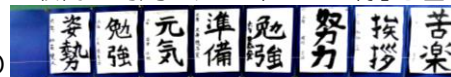
よく「頑張っても無理」とか「できなかつたら意味がない」

などと考えたり言ったりしがちです。 **校長 佐藤 倫夫**

しかしそうではありません。結果が全てではなく、むしろ努力することには結果以上の意味がある—そういうことを様々な場面で教え育てていきたいと考えています。

6年生の「目標」から

4～6年生の書写の最初の時間に、「●年生の目標」を書いてもらいました。



右の写真は6年生の作品。たくさんの素晴らしい目標が出揃いました。



その中に「苦楽」と



いう目標があります(上の写真の右上)。私はてっきり、「苦楽を共にする」—「6年生みんなで苦楽を共にしながら、一緒に楽しむ」ということかな?—とっていました。書いた子にその言葉を選んだ理由を聞き、驚きました。

その子は、「苦しいことにも楽しいことにも、全て意味があると信じて、どのようなことでもあきらめずに頑張りたいから」と言ったのです。

ともするとマイナスのイメージが強い「苦しいこと」をも前向きに受け止め、「全てのことの意味がある」と言い切る—それを最高学年とはいえ、小学生の子から聞かされたという驚きと喜びは、私の心を強く揺さぶりました。

結果を考えず、苦しい場面も厳しい局面も、全て前向きに受け止め、最後まで諦めずに最高の赤組・最高の白組の仲間を信じ、そして「優勝」の2文字を目指してただひたすら「がむしゃら」に頑張ってもらいたいと思います。

保護者の皆様におかれましては「がむしゃら」に頑張るお子様方に、大きな声援と終了後のねぎらいのお言葉をよろしくお願ひいたします。



CAUTION CAUTION CAUTION CAUTION 今一度、交通安全の意識を！

報道などでご存じのことでしょうが、16日(木)札幌市で登校中の児童が交通事故に遭い、尊い命を失ってしまうという痛ましい事故がありました。ご遺族のお気持ちを察すると、あまりにも悲しすぎて言葉を失ってしまいます。謹んでお悔やみを申し上げます。

翌日の17日、全学年で交通安全教室が行われたこともあり、全クラスで共通指導をしました(詳細はHP「いずみ野Diary」参照)。

- *道内で登下校中に交通事故に遭った小学生
- ▶5年間で222人(半数が横断歩道上で発生)
- ※死亡事故は2015年6月以降なかった

重要：青信号を渡る際にも左右確認の徹底を！

最近、本校児童と思われる子が、スマホを見ながらヘルメット未着用で自転車を運転していたという目撃情報がありました。言うまでもなく非常に危険な行為です。今一度、ご家庭でも交通安全の意識の徹底をお願いいたします。



▶最近、いずみ野小の児童4名が密かにグループを結成しました。毎日の給食メニューから1つ(「うどん」「ギョウザ」等)を題材に、歌と踊りを創作しています▶その企画書の「めあて」には「みんなを笑顔にさせる」と書かれています。私も何度か見せてもらいましたが、ほっこりとした笑顔になりました▶「人を笑顔に」とか「人のために」という感情は、後発的なものです。例えば赤ちゃんは100%「自分本位」(でありながら周囲を幸せな気分させる稀有な存在)で、全てが「他人任せ」です。しかし成長とともに他者への奉仕の心が養われていくのです▶6年生は4月、「ミニ先生」として1年生の折り紙の指導や読み聞かせをしてくれました。5月にその活動は終わりましたが、希望者が数名、今も「ミニ先生」として1年生のためにお手伝いしてくれています。そんな1年生も、先日「係活動」がスタートしました▶日本の子どもは「自己肯定感が低い」と言われます。人のために頑張る子を大いに称賛することで、自己有用感、ひいては自己肯定感を高めたいと考えております。ご家庭でもお手伝いをさせ、大いに褒めていただけたらと思います。